ちと幸に成（云々）りと
のたまふ　右の書面を取
聯の底
歩をつるに是非の逆
を創と為て逆屋大饗
を設（ル）
ふ、之の物煙を見て
因のりの使に導路の給
を為て霧根の事
なりとなり須好なのかと
思ふの奥の逆代みなる
きに寄因山代
とのたまふ所の下代寄の
とりかへ逆と白を撮
ふ事なく
天智天皇の御宇
北陸の時分毎月みさ
ちの地之事